

# ただ 町政を質す!!

## 一般質問

秋元 直樹 議員



**問** 遠軽町個別排水処理事業については、平成27年度に事業計画が策定され、本年度から未整備地域を中心に施策展開しているところですが、対象の生田原・安国の地域住民からは、合併後における最大の懸案事項であった水洗化が図られることもあり、喜びの声が聞かれます。

1 本年度における合併浄化槽設置申込者の工事は、当初計画では7月以降に予定されていましたが、冬季のこの時期になっても全ての工事が完了していません。なぜこのような遅れが生じたのか。また、来年度以降の工事発注の時期はいつ頃と考えていますか。

2 住民説明会において、合併浄化槽の申込受付は、水洗化を行っていない方を優先して行うと説明をしていますが、単独浄化槽設置者に対してはどのように考えていますか。

3 公営住宅の入居者

**問** 水洗化の工事が冬季まで遅れた理由は

**答** 大雨や台風災害が重なったため

等から早めの水洗化が望まれています。今後の水洗化の考えについて伺います。また、公営住宅の中には建築後の耐用年数の課題もあり、水洗化を行うべきかの判断が難しい施設も点在しております。また、今後どのような基準で判断を行っていく考えなのか伺います。

**町長** 当該事業は、昨年度基本計画を策定し、10年間を基本計画として、本年度より公共下水道事業の計画区域外に浄化槽の普及を進めています。

1 点目の本年度の工事が遅れた理由と、来年度以降の発注時期につきましては、7月頃より5か所程度を1工事として発注予定でしたが、事業初年度で、様々な検討を要する事案が発生し、工事設計の発注までに時間を要してしまいました。

また、大雨や台風災害が重なったことから、施工に遅れが生じたので、来年度以降は早い時期に発注できる体制で臨んでいきます。

2 点目の単独浄化槽設置者に対しての合併浄化槽設置申し込みについては、生活排水・し尿ともに処理施設のない方を優先して整備を進めていき

たいと考えており、おおむね3年後から整備していく予定です。

しかし、利用されている方の事情もありますので、個々に相談を受けながら柔軟に対応していきたいと考えています。

3 点目の公営住宅の水洗化については、地域別には、丸瀬布地域が100%、白滝地域が90%、遠軽地域が75%、生田原地域が25%と、生田原地域が低くなっています。

今後の判断基準については、町営住宅長寿寿命化計画を策定中であり、建替を予定している団地については、その機会に水洗化を進め、維持保全を予定している団地については、住宅の老朽度合を勘案しながら判断し、計画的に水洗化していきたいと考えております。

## 一般質問

竹中 裕志 議員



問

キララン清里の管理運営と利用促進は

答

周辺施設の利活用を含め検討したい

問

本施設は、自然あふれる中での体験学習や研修会場、宿泊施設として実績があり、今後も堅調な利用が期待されます。

しかしながら、熊の出没等による安全確保のため周辺施設の利用が一部制限されているのが現状です。今後はどのように本施設の安全性を確保して、利用促進を図っていくのか、伺います。

教育長

当該施設は廃校となった小学校を改修し、自然や人々とのふれあいを通じた体験学習や自己研鑽のための施設として開設しました。

キャンプサイトを含む周辺施設については、周辺にヒグマが出没したことから、宿泊を控えていただいている状況です。

今後も、キャンプ利用の希望は、町内の他の施設を紹介、誘引することに対応を考えています。

次に、近年の施設利用状況は、研修会、親睦会などの利用のほか、一般の団体の利用、社会教育事業における体験学習や宿泊研修事業でも活用されており、今後も研修や親睦事業による利用拡大やスポーツ合宿、社会教育事業での活用を図ってまいります。

問

今後の緊急通報システムの推進と対応は

答

70歳未満の方へも柔軟に対応します

問

本事業は、高齢弱者の日常の不安解消や安全確保を目的としたものです。

また、当該施設の機能や利用料金については、広報紙や町のホームページでの周知及び各種団体への案内などで、情報発信に努めつつ、周辺施設の有効な利活用も引き続き検討してまいります。

近年の急激な核家族化と高齢化、合併後の地域の広域化などにより、ストレスや不安が募る高齢者世帯が増えているので高齢者の安心安全を守る本事業は重要です。

そのためには、町民が本制度の内容を十分に理解し、積極的に推進することが必要と考え、2点について町長に伺います。

1 当該事業要綱に「おおむね70歳以上のひとり暮らしの高齢者」の規定が「70歳」と明記していない理由は、

また、「町長が特に安否の確認を要する」の、具体的な運用は。

町長

1 点目については、年齢制限では対応できない場合があり、「おおむね70歳以上」としていましたが、現在のご利用者の中には「70歳未満」の方もいます。「町長が特に安否の確認を要する」については、独り暮らしの世帯に限らず、状況を判断して夫婦世帯にも貸与しております。

2 点目については、対象となる方の状態に主眼をおき、70歳未満の方へも柔軟に対応しておりますので、現行のままの取扱いでご理解を願います。

# ただ 町政を質す!!

## 一般質問

阿部 君枝 議員



**問** 高齢化が急速に進展するなか、いわゆる団塊の世代が75歳以上となる平成37年を見据え、高齢者が安心して暮らせる地域社会を作り上げていくことが重要な課題となっています。

そのためには、元気な高齢者が要介護状態にならないための「いきがいづくり」や「社会参加促進」施策など、介護予防につながる諸施策を展開する必要があります。

現在、各自治体で進められているのは、高齢者の「介護支援ボランティア」等と呼ばれるもので、介護予防を目的とした65

歳以上の高齢者がサロン、会食会、外出の補助、介護施設等でボランティア活動を行った場合に自治体から「ポイント」を付与するもので、貯まったポイントに応じて、商品との交換や換金のほか、介護保険料の軽減に利用できる自治体もあります。

これらの事例を参考に、本町においても、取り組み考えはありませんか。

**町長** 現在、遠軽町におきましては、介護保険制度の改正により、平成29年度4月から、今まで保険給付していた全国一律の「介護予防訪問介護」

及び「介護予防通所介護」を市町村が実施する新しい介護予防・日常生活支援総合事業の一部へ移行する準備を進めているところであり、事業実施にあたり、介護事業所による現行相当サービスに加えて、NPO、民間企業、ボランティア等を活用した多様なサービスにより高齢者を支援することを想定しており、住民主体の組織を養成していくとしております。

なお、介護ボランティアポイント制度の導入につきましては、今後、先駆的な導入を図っている自治体の実態を調査する

**問** 食べられる状態なのに捨てられる「食品ロス」は、家庭やスーパー、ホテル、レストランなど、あらゆるところで見受けられます。

長野県松本市では、宴会の食べ残しを減らすため、乾杯後の30分と終了

問

### 高齢者のボランティアポイント制度を導入する考えは

答

### 総合的に検討したい

など、総合的に検討して参ります。

問

食品ロス削減のための啓発する考えはありませんか

答

「もったいない」という意識を個々で持つことが必要です

町長

前の10分は自席で食事を楽しむ「30・10運動」を進めています。

本町においても、飲食店等における食品ロス削減のための啓発する考えはありますか。

生原因は、一般家庭での食べ残しや買い過ぎ、食品製造過程で発生した不良品、飲食店における仕込み過ぎ、食べ残しなどによるものです。

この件につきましては、一般家庭における「もったいない」という意識を持ち、個々で出来ることから取り組んでいくことが必要ではないかと考えます。



## 一般質問

佐藤 昇 議員



## ただ 町政を質す!!

**問** 北海道教育推進計画の一環として、平成29年度までに小学校で「集団フッ素洗口100%の導入を目指す」となっていますが、次の3点について伺います。

- 1 導入はいつ頃を予定しているか。
- 2 研究機関によっては、有害作用を指摘するところもあり、導入は見送るべきと思うがいかがか。
- 3 導入するとすれば、保護者や教職員等の理解と対応や、薬品の保管方法、子どもたちへの指導など綿密な計画を立てる必要があると考えるが。

**教育長** 北海道の児童生徒における歯の健康状況は、全国と比較して、虫歯がある子どもの割合が高いことなどからフッ化物洗口を児童生徒の健康管理に関する重点施策の一つと北海道では考えており、道保健福祉部や歯科医師会等と連携し学校等におけるフッ化物洗口を推進しています。

北海道教育推進計画では、導入に向け、平成29年度までに全学校での実施を目標としています。

遠軽町教育委員会としても平成29年度に、フッ化物洗口を導入したいと考えています。

また、知能低下、甲状腺機能の低下、臓器への影響などの慢性中毒、よだれ、嘔吐、けいれんなどの急性中毒、アレルギー症状などの健康被害については、定められた手順に従えば、有害作用が起これないといわれています。

なお、導入にあたっては、関係者等と協議し、理解を得た上で進めていきたいと考えています。

※フッ化物洗口とは  
フッ化物を含む水溶液を用いてブクブクうがいを行い、歯のエナメル質表面に作用させる方法。

**問** 8月の台風直撃により、遠軽地域のパークゴルフ場も一部使用不能になりました。過去にも被害があり補修には多くの費用が投入されています。そこで、道の駅の利用促進という観点から、ロッキバレースキー場にパークゴルフ場を作るべきと考えます。

平成26年12月、同趣旨の一般質問で「36ホール

**問** ロッキバレーにパークゴルフ場を  
**答** 地理的条件などを勘案し検討します

のコースを作ることが可能か検討する」との答弁でしたが、その後の検討状況について伺います。

**町長** 当該パークゴルフ場は、幾度となく被害に遭い、その度、改修の経費がかかっていることは承知しています。

「遠軽IC」の供用開始にむけて、ロッジ機能を兼ね備えた「道の駅」を整備するため検討協議会を立ち上げ、コンセプトについて議論してきたところです。

現在は、「道の駅を考える会」の部会において詳細な検討をしており、「遠軽IC道の駅体験プログラム」の意見照会においても町民から同様の意見も出されています。

今後、町民意見も踏まえ、パークゴルフ協会とも相談しながら地理的条件等を勘案し検討します。

# ただ 町政を質す!!

## 一般質問

稲場 仁子 議員



**問** 道では、平成23年から授乳とおむつ替えができる施設を「北海道赤ちゃんのほっとステーション」として登録する事業を開始し、乳幼児を抱える親子が安心して外出でき、社会全体で子どもを安心して産み育てることができる環境づくりと、観光等における魅力づくりを進めております。

遠軽町においても、子育て支援の一環として、乳幼児を連れて安心して外出できる、地域のイベント等にも気軽に参加できる環境づくりを推し進めていくべきとの考えから、次の4点について町

長の見解をお伺いします。

1 遠軽町の公共施設における授乳室やおむつ交換台の設置状況はどのようなになっていますか。

2 現在設計が進められている道の駅には、授乳室の設置が盛り込まれていますか、(仮称)町民センター、今後新たに建設する公共施設に、おむつ交換台や授乳室も設置する考えはありますか。

3 現在ある公共施設にも、授乳室(スペース)やおむつ交換台を設置する考えはありますか。

4 町内では、一年を通して様々なイベントを開催しています。屋外で

開催されるイベント時に貸出可能な授乳・おむつ替えテントを導入する考えはありますか。

**町長** 1 授乳コーナーについては、げんき21に2か所、ちゃちゃワールド2階あそびの広場、昆虫生態館研修室の3施設4か所に設置しています。おむつ替えコーナーは、遠軽地域は、げんき21、虹の広場管理棟、図書館、温水プール、太陽の丘えんがる公園の5か所、生田原地域は、図書館女子トイレ、ホテルノースキング女性用風呂脱衣室、ちゃちゃワールド1階女

子トイレ・2階あそびの広場の4か所、丸瀬布地域は、生涯学習館、昆虫生態館、トイレ333女子トイレの3か所、白滝地域は、支所1階女子トイレ、国際交流センター女子トイレ、保育所の3か所で、合計15か所設置しています。

また、平成23年度には、「北海道あかちゃんのホットステーション」事業の補助金を活用して、町内のスパーマーケットにおむつ交換台等を設置しています。

2 今後、新たに建設される「町民センター」等の公共施設においても、道の駅同様、授乳室やおむつ替え台の設置を検討します。

3 現在ある公共施設については、施設のスペースから難しいと思いますが、設置可能な施設については検討します。

4 町内の屋外イベントについては、授乳・おむつ替え用のテントの貸出は行っていないませんが、観光イベントでは、授乳室用の仮設テント(まるせつぷ観光まつり)の設置や、会場内の施設を一時授乳室(コスモスフェスタイベント)としてご利用いただいています。

今後についても、イベント来場者のニーズを踏まえ、適切に対応していきたいと考えています。

**問** 授乳室、おむつ交換台の設置拡充を

**答** 設置可能な施設については検討していく

## 一般質問

黒坂 貴行 議員



問

(仮称) えんがる町民センター  
建設について

答

多くの皆様に理解をいただける  
施設になるよう推進する

問 (仮称) えんがる町

民センター建設事業は用地の買収・補償が進み、今後は基本設計が作成されます。建設内容に町民の意見を反映させるため検討委員会が組織されました。協議会の検討内容をお伺いします。

また、当初は駅前再開発も含め計画されていたが、駅前側の用地買収が叶わず計画が変更されました。駅前用地買収断念後の建設計画をお伺いします。

ほかの変更として、用地買収にあたり、病院の譲渡を受ける際に、岩見通南2丁目側に追加用地の買収が計画されたこと

町長

協議会の検討内容については、「文化セン

ろです。この追加用地の店舗の移転により、商店街の衰退を招くことも考えられます。今一度、検討する考えはありませんか。

ター等を考える会」の進言書を基本として、建物の配置やレイアウト、機能等について検討します。また、一体的な整備として「旧ふあーらい」の利活用についても検討します。基本設計委託業者及びアドバイザーを交えて協議を重ね「町民が気軽に集い賑わう場」となる施設を考えています。

駅前通りに面する民間所有地の取得が困難になり、駅前整備との連携は見直しました。

さらに、旧遠軽中央病院の土地、建物についても、取得を断念せざるを得ない状況となり、様々な可能性を探するため、岩見通南2丁目側に用地取得の打診をしたところで

す。旧中央病院跡地の傾斜地の利用よりも、平場のコミュニティ駐車場を活用した方が様々な設計内容に対応ができ、有効活用できると考えています。結果的には、旧中央病院の土地、建物の取得することができましたが、

施設へのアクセスの利便性を考慮し、岩見通南1丁目を対面通行とする場合は、岩見通南2丁目側に用地が必要です。

また、「旧ふあーらい」の利活用と一体的な周辺整備を検討するため、建設計画の範囲として、該当店舗に係る補償費算定委託の補正予算が議決されました。

なお、駅前広場の整備については、駅舎への階段のバリアフリー化する検討や経費の負担について、北海道と協議し駅前再開発を進めていきます。追加用地の店舗の移転により、商店街の衰退を招くことも考えられるこ

とから、今一度検討する考えは、ということですが、「老朽化した福祉センターの建替の検討」と「文化センターの建設について、基本に係る議論を深め、方針を定める」を公約に掲げ、これらを果たしてきたものと自負しています。シンボリックな建物を中心市街地に建設することで、市街地が活性化され、地域経済への好影響が期待されることから、商店街が衰退する認識はありません。建設計画の範囲については、病院の例のように様々な要因により、判断を迫られる場面もありますが、最善の判断をしていくことが重要です。長年にわたり利用する施設であることから、多くの町民の皆様が納得し、ご理解いただける施設になるように検討を進め事業を推進します。